

日本の心を発信

★ 甘いマスク、女子高生にモテモテ 坂井 音雅



「家の芸が身に付き、端正な動き、安心して見ていられる」と評価も高い坂井音雅＝東京都渋谷区で

杖をつきながらさまよう盲目の青年芸人・弱法師(シテ)。高安道俊(ワキ)は、人の讒言でわが子・俊徳丸を追放するが、悔いて天王寺で施しをしている。道俊の前に現れた弱法師をわが子と知り、二人は連れだつて故郷へと帰って行く。

先に、東京・渋谷のセルリアンタワー能楽堂で開かれた第二回坂井兄弟会で坂井音雅がシテを舞った「弱法師」。普段の能楽堂では見られない女子高校生らの若い観客が目立った。「部活動の能楽部で坂井先生に鍛えられているんです」。色白の甘いマスク、気さくな人柄。人気の先生なのだろう。

期待の☆ 星たち!

次男・音隆が能「井筒」のシテを舞った。

橋掛かりから舞台上に登場するシテ柱を寺の石段に見立てて杖で探ったり、人に突き当たって落とした杖を探るなど、杖の象徴的な扱いが見もの。音雅は「身は落ちぶれながらも、信仰に強く生きる純粋な青年の悩みに魅力を持った」と語る。

観世流宗家一門の重鎮、音次郎(一九八二年死去)、音重(セシ)に続く坂井家三代目は、音雅を筆頭

さかい・おとまさ 1974年、

東京生まれ。シテ方観世流・坂井音重の長男。観世流26世宗家・観世清和と父に師事。8歳で初シテ「経正」を舞った。ほかに「乱」「石橋」「道成寺」などを演じた。

第二回では音雅がシテ、今後年一、二回開く会では兄弟が順番にシテを舞う予定だ。

「家の芸が身に付いているだけに、端正な動き、観世流のいろんな舞台にも顔を見せ、どんな場合でも安心して見ていられる」と周囲の評価も高い。音雅は十二月一日、岩手県盛岡市民文化ホールで開かれる「盛岡能」で「土蜘蛛」入道之伝」のシテを舞う。

さらに活動の場を広げようと、父はNPO法人・白翔会を立ち上げ、音雅を理事長に就任させた。「日本文化の持つ心の豊かさや素晴らしさを国内外に発信していきたい」と音雅は力強く語る。

(富沢慶秀)